

社会福祉法人愛の泉創設者のひとり

ゲルトルート・エリザベート・キュックリヒ (Gertrud Elizabeth Kücklich)

略歴

1879年12月25日ドイツ国(Deutsches Reich)バーデン大公国(Großherzogtum Baden)のシュトゥットガルトで生まれた。

父エルンスト・ラインホルトは、ドイツの福音教会(いわゆる自由教会)の牧師で、キュックリヒが生まれた頃は、シュトゥットガルトにあった福音教会の出版社に勤めていた。母ドロテア(旧姓ロエーム)はロイトリンゲンの豊かな農家の娘で、代々ロイトリンゲンの教会と神学校を支える家庭であった。キュックリヒの兄ラインホルトは後にこの自由教会の神学校の校長となった。ドロテアはキュックリヒが8歳の時に亡くなり、ラインホルトはマリア(旧姓シュリーント)と再婚している。

キュックリヒは父の転任にともない、プロイセン王国のベルリンに転居し、1906年、小学校に入学した。1914年、ギムナジウムではなく、ベルリンの福音教会のいわゆるリセ(Lyceum)に進学し、父が再びシュトゥットガルトに転任したことにもない、シュトゥットガルトの福音教会が設置した、当時の福音教会フレーベル・セミナー(Evangelische Fröbel Seminar、今日の Evangelische Fachschulen für Sozialpädagogik)で学び、幼稚園教諭の資格を得、さらに1921年には幼稚園教師養成のための上級教師として国家試験に合格した。フレーベル・セミナーを卒業後は、福音教会の教育部で、日曜学校のカリキュラムの確立、指導方法の研究などを行った。

1922年、既に日本で10年間、福音教会の宣教師として活動していたナタリー・バーナーの要請を受け、アメリカの福音教会から日本に教育宣教師として派遣された。

小石川で日本語を学びながら、小石川福音教会に併設されていた孤児収容施設愛泉寮及び保母養成所で活動を開始した。キュックリヒは、自分がフリードリヒ・フレーベルの孫弟子であるという強い自覚のもとでその業務にあたった。また、同時に、向島教会(現在の聖和教会)の設立やその後の伝道を助けた。教会は隣接する鐘淵紡績の工場と深い協力関係にあり(当時の工場長が熱心なキリスト教徒であった)、教会内に託児所を設け、それが鐘ヶ淵子供の家となり、鐘淵紡績のいわゆる企業内保育所にも発展した。

第二次世界大戦期、とりわけ1936年以後、キュックリヒにとっては多くの艱難に直面する時代であった。ドイツ国籍の彼女には、当時の日本の文部省の意向に沿ったドイツの保育観の紹介が求められ、ドイツの国家社会主義下での保育観や人間観を日本の状況にあてはめるいくつもの論文や文章を書くことになった。

しかし、キュックリヒはアメリカの福音教会の宣教師として来日していたため、アメリカとその同盟国が参戦した後は、ドイツのゲシュタポによって監視され、アメリカの宣教師資格を放棄するように迫られた。しかし彼女がそれを拒否すると、自宅に軟禁され、最終的にはドイツ大使館での家事労働に従事させられた。

終戦直前は逆に、ドイツ人宣教師であるがゆえに、GHQ や CIC (Counter Intelligence Corps) の監視下に置かれるようになり、財産調査や思想調査など、いくつもの調査を経て、ようやく制限のない活動が許可されることになった。

戦後の混乱の中、1945 年、埼玉県礼羽村（現在の加須市土手）の岡安ゴム工場内にあった工員宿舎で、戦災孤児の救済計画を岡安寿々、岡安正庫と共にいち早く開始した。これが今日の社会福祉法人愛の泉の原型である。さらに福音教会の P・S・メーヤー監督の協力を得て、1947 年愛泉教会を設立した。初代牧師は代務者としてのメーヤー宣教師であった。

愛の泉が社会福祉法人として登記された後は、第 3 代理事長となり、キリスト教保育連盟副理事長なども歴任した。また東洋英和女学院短期大学保育科、草苑保育専門学校などで教え、1965 年、和泉短期大学創設の際には初代の保育学の教授となり、保育原理を担当した。これらの業績のゆえに、1964 年に勲四等瑞宝章、1968 年に西ドイツ政府からは一等功労十字勲章を贈られ、1970 年には加須市名誉市民に推挙された。

1976 年 1 月 2 日、正月の休暇を過ごしていた高輪プリンスホテルで亡くなったが、その際一緒に宿泊しており、ホテルのフロントにキュックリヒの死を知らせたのが、当時 4 歳の、現在の社会福祉法人愛の泉理事長潮田花枝であった。1 月 5 日に愛泉教会で密葬が、1 月 10 日に加須市福祉会館で加須市民葬が執り行われ、遺骨は、ドイツではなく、愛泉教会の愛泉墓苑に埋葬された。ベルリンにはキュックリヒの業績を記念して、女史の名を冠した老人ホームが開所した。キュックリヒの墓碑には、「とこしえにいます神は、あなたのすみかであり、下には永遠の支えがある」（申命記 33 章 27 節）と刻まれている。

参考文献

Reinhild Bettina Jetter, Gertrud Kücklich. Japan-Missionarin der Evangelischen Gemeinschaft. Ein Beitrag zur interkulturellen Bedeutung christlicher Missionsarbeit. EmK Geschichte - Monographien, Bd. 48, Stuttgart 2002

Karl Heinz Voigt, Kücklich, Gertrud Elizabeth, Biographisch-Bibliographisches Kirchenlexikon, Bd. XXVII, 2007, Sp. 813-820.

(愛の泉広報部)